

松くい虫被害の発生メカニズム

- マツノザイセンチュウ(線虫)がマツの樹体内で活動することにより、通水阻害を起こしてマツが衰弱・枯死。
- 衰弱・枯死したマツにマツノマダラカミキリ(カミキリ)が産卵。羽化した新成虫が線虫を体内に入れて別の健全なマツに移動し、その若枝を食べる際に線虫が樹体内に侵入することで、周囲に被害が拡大。



1mm
マツノザイセンチュウ



春

カミキリ成虫が若枝の皮を食べる（後食）時に、線虫がマツの樹体内に侵入



マツの枝の皮を食べる成虫



5月～7月に羽化したカミキリが線虫を体内に入れて樹体内から脱出



夏

樹体内で線虫が増殖し、マツが衰弱



秋

夏～秋にかけて衰弱したマツにカミキリが産卵



冬

ふ化した幼虫は樹皮下で成長し、成熟した幼虫が材内の蛹室で越冬



2.5cm
マツノマダラカミキリ

注1) 発生メカニズムについて、被害の発生時期などは地域の気候等によって異なるため、おおよその季節を記載している。

注2) 「カミキリ」とは「マツノマダラカミキリ」を、「線虫」とは「マツノザイセンチュウ」のことをそれぞれ指す。